

インフルエンザ大流行、厳しい冬となる恐れ 新変異株「K亜系統」への対策は?・何より、新型コロナ感染症（COVID-19）が今冬に流行しないとは誰も言っていない。

11/18 Fobess Japann



Shutterstock.com (フォーブス ジャパン編集部)

新たな懸念が広がっている。インフルエンザ A (H3N2) 型ウイルスの新しい変異株「K亜系統」の流行が深刻化しているのだ。すでに英国、カナダ、日本でインフルエンザ患者数が急増していることから、この冬「K亜系統」が北半球に深刻な大流行を引き起こす恐れが指摘されている。

■ワクチンに含まれるウイルス株と「K亜系統」はかなり異なる

大きな懸念の1つは、今年のインフルエンザワクチンの基となったH3N2株と「K亜系統」のミスマッチだ。H3N2株は南半球で流行した夏の間に、7カ所の新たな変異を獲得したようである。これは知り合いがしばらく会わない間に整形手術を受けて顔の見分けがつかなくなってしまったようなもので、ウイルスの構造が変化した「K亜系統」に対し、従来のH3N2株を基に製造されたワクチンが効きにくい可能性を専門家は指摘する。

今季のインフルエンザワクチンはH3N2株の「J系統」とその派生の「J.2系統」を基にしている。このインフルエンザワクチンを接種すれば、免疫系はJ系統のウイルス株に対してより効果的に反応するようになる。しかし、現在の流行株は「K亜系統」に置き換わりつつあるため、ワクチンによる免疫防御が十全な効力を発揮しないかもしれないのだ。ただ、ワクチンとウイルスにミスマッチがあっても、今季のインフルエンザワクチンがこの冬から来春にかけての流行においてまったく感染予防効果を発揮しないわけではない。英イングランドの公衆衛生行政を統括する英国健康安全保障庁（UKHSA）のデータによると、ワクチンは依然として有効性を示している。

一方で、ミスマッチが大きいほどワクチンの効果は低下する。ワクチンに含まれるウイルス株と流行株がうまくマッチするシーズンには、ワクチンの有効性は約 60% に達する。だが、ミスマッチが顕著なシーズンの有効性は 30% まで低下することがある。

通常、世界保健機関（WHO）は毎年 2 月に北半球向けインフルエンザワクチンの株選定プロセスを調整する。このリードタイムが必要な理由は、株の特定から鶏卵でのウイルス培養、各種試験を経てワクチン製造・供給に至る全工程に 5~6 カ月を要するためだ。したがって、ワクチンに含まれる成分は 2 月以降に発生した流行株の変異や変化に対して万全には対応できない。

日・英・カナダで患者急増、米国でも懸念拡大

■ 「K 亜系統」で流行悪化の恐れ

前述した通り、北半球ではすでに各地でインフルエンザ患者が急増している。日本の報道によれば、同国内の患者数は前年同期比で 6 倍に増え、休校や学級閉鎖などの措置をとる学校や幼稚園が相次いでいる。

英国の公衆衛生・医療を担う国民保健サービス（NHS）の最高責任者サー・ジム・マッキーは、英医療系シンクタンクのキングス・ファンドの年次総会で「NHS は、厳しい冬を迎えるようとしている。インフルエンザ患者数は昨年同期の 3 倍増となっており、患者が受けるべき医療水準を満たすのはいっそう困難になるだろう」と述べた。インフルエンザ患者がさらに増加すれば診療所や救急治療室、病院がひっ迫し、他の疾患の治療の妨げとなりかねない。

カナダでも患者数が増えており、カナダ政府はウェブサイトで「インフルエンザの活動性の指標はまだ比較的低いが、ここ数週間で増加している」と警鐘を鳴らしている。今のところカナダで流行している主流株は A (H1N1) 型だ。しかしインフルエンザは、マーベルのスーパーヒーロー映画に新たな敵が次々と出現するように、流行中に優勢な株が置き換わっていくことがある。

■ 「K 亜系統」の十分な情報提供、CDC にできるのか

政府のウェブサイトといえば、米国では先週まで史上最長となる連邦政府機関の閉鎖が続いているため、国民はインフルエンザ流行の現状を知ることができなかった。43 日間に及ぶ閉鎖期間中、米疾病対策センター（CDC）は公式サイトをほとんど更新しなかった。閉鎖が終了した今、少なくともつなぎ予算案の期限が切れる 2026 年 1 月 30 日までは一部のウェブサイトは更新される可能性が出てきた。

しかし、である。CDC に関しては、より長期的な懸念がある。

ドナルド・トランプ政権は発足以来、イーロン・マスクが当初率いた政府効率化省（DOGE）を通じて CDC や保健福祉省（HHS）の人員を削減し、保健・科学分野の連邦予算をありとあらゆる方向から削ってきた。これら一連の方針が、インフルエンザの流行を監視し情報提供を行う CDC の能力にどのように影響するかは、まだ答えが出ていない。直近 10 年間の米国のインフルエンザ関連死者数は、1 シーズンあたり約 6300 人から多い年には 5 万 2000 人を超える。国民に明確に説明できる計画すらないまま CDC と HHS を解体してしまえば、インフルエンザによる今年の死亡者数はさらに増えるのではないだろうか。

米国は昨年、2009 年の新型インフルエンザ A (H1N1) 型のパンデミック（世界的大流行）以来最悪の流行に見舞われたばかりだ。

今すぐできる「K 亜系統」対策とは

■ 「K 亜系統」への対策は？

感染から自分を守るためにできる対策はある。まず、インフルエンザワクチンを毎年接種することだ。先にも指摘したとおり、「K 亜系統」に対する有効性は従来株ほど高くないかもしれないが、一定の予防効果はある。何もせず丸腰でウイルスに直面するよりは明らかにました。

それから、手指をしっかりと洗うことも感染予防対策になる。外出から帰ったら、手に石鹼をつけて少なくとも 20 秒間は泡立て、水でよく洗い流そう。

また、インフルエンザウイルスは新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）ほど空気中を浮遊しないものの、マスク着用と部屋の換気はやはり効果的だ。何より、新型コロナ感染症（COVID-19）が今冬に流行しないとは誰も言っていない。2020 年以降、毎年 11 月から感染者が急増しており、2025 年も例外ではないだろう。

最後に、身の回りの状況に注意を払うことだ。保健当局が国内の感染状況を報告してくれるのが理想的だが、身近でインフルエンザにかかった人がどれくらいいるのか、個人レベルで把握に努めることもできる。もしも地元や訪問予定の地域でインフルエンザ感染が広がっているようなら、人が密集する集まりは避けるべきだ。そして、患者が触れた可能性のある家具や物品などの環境表面はしっかりと消毒しよう。

米国の公衆衛生システムは今、決して順調とはいえない。むしろ混乱状態にある。そして、そういうときこそ自分で感染予防策を講じる必要がある。「K 亜系統」対策もその 1 つということになりそうだ。